



たんぽぽぐみだより

2018年 1月 第4号

あけましておめでとうございます

吐く息も真っ白になるほど寒い日が続いています。そんなことも気にせず、子どもたちは元気いっぱい園庭を駆け回っています。

たんぽぽぐみでの生活も残り3ヶ月となりました。これからたくさん思い出を作り、楽しく過ごしていきたいと思います。



今日もマッチョベリベリ!



歌ったり、踊ったりすることが大好きな子どもたち。練習のときから笑顔で楽しんでいました。「げんこつ山のためきさん」は好きな手遊びの1つで、手をトントンしながらおしりまでフリフリしてしまう姿に毎回ほっこりしていました。お遊戯「チェケマッコ」は、進級当初から少しでも時間があれば踊っていた曲だったので、振りは完璧でした。間奏のところは、以前保育士が子どもたちのお腹を順々につついて回ったのを真似した姿が、とてもかわいらしかったのでそのまま加えました。朝、保育士が出勤すると、「おはよう！」の前に、「マッチョベリベリやる？」と毎日のようにリクエストが入るほど、張り切って練習していた子どもたちでした。

クリスマス会当日、登園時いつもと違う雰囲気泣いてしまうと思いましたが、「がんばるぞ、おー！」と笑顔でお遊戯室に向かうことが出来ました。幕が開くと、敬老招待のクリスマス会以上の人の多さに固まってしまいましたが、「チェケマッコ」が聞こえるほとんどの子が元気いっぱい踊ることが出来よかったです。子どもたちの頑張りに拍手を送りました。



やる気スイッチ、ON!



進級に向けて、徐々に身の回りのことを自分で行えるよう頑張っている子どもたち。衣類の着脱や靴下・靴の脱ぎ履き、自分のロッカーから紙パンツ、布パンツを持って来たり、タオル・ノートをカバンにしまったりなどさまざまなことに挑戦しています。今、1番頑張っているのは、給食後のパジャマへのお着替えです。月齢に合わせて介助の仕方を工夫しています。

☆月齢の高い子☆

まずは、‘出来るところまでは自分で’を合言葉に、子どもたちが「できない」「やって？」と、声がかかるまで見守っています。どうにかして上着を脱ごうと引っ張ってみたり、体をよじりながら脱いだり自分で考えながら行っています。そんな姿を見ると、つい手を貸したくなるのですが、「あとちょっと！」と声をかけながらグッとこらえています。その脱いだ衣類をパジャマ袋に入れることにも慣れてきました。最近では、たたむことにも挑戦中です。

☆月齢の低い子☆

ズボンや紙パンツの脱ぎ履きからスタートしました。始めのうちは、ある程度のところまで保育士が行い、あとは自分で行う方法で練習していきました。例えば、履くときには‘両足を通すところまで’、脱ぐときには‘くるぶしのところまで下げるところまで’など、少しずつ出来ることを増やしていきました。最近では、とてもスムーズにいくようになり、「自分でやりたい！」という気持ちも出てきて、保育士が手を貸そうとすると怒られてしまうほどです。

身の回りのことだけではなく、トイレトレーニングや食事面、言語面などその子その子のペースがあります。1人ひとりに合わせた介助をしていき、頑張る姿を見守っていきたいと思います。また、何か気になることがありましたら、引き続きノートに書いて頂いたり、気軽に声をかけて頂けたらと思います。